

医療安全全国共同行動 第1回全国フォーラム 挨拶

岡本浩二(厚生労働省大臣官房参事官)、山本修三(日本病院団体協議会議長)、
羽生田俊(日本医師会常任理事)、永池京子(日本看護協会常任理事)、
本間崇(日本臨床工学技士会常務理事)

2008年11月24日(月・祝)

【山本修三 日本病院団体協議会議長】

日本病院団体協議会議長の山本でございます。三連休の最後ということもあって、集まりが少し寂しいかなという気もいたしますけれども、この共同行動に理解を示していただいた大変熱心な人たちにお集まりいただいていると理解しております。どうぞよろしくお願いいたします。

この共同行動は、ただいま挨拶されました医療の質・安全学会理事長、高久史磨先生の下で、東北大学の上原鳴夫教授がキャンペーン全体の実行責任者として、これまで強力に取り組んでおられました。そのリーダーシップにあらためて、深く敬意を表するものでございます。

医療の質を高め、安全な医療を提供することは、われわれ医療を提供する者の使命であります。この医療安全全国共同行動は有害事象からの患者さんの不幸な死を減らすために、この趣旨に賛同した参加登録病院が8つの行動目標の中より取り組み目標を選択し、その対策指針、ベストプラクティスによる取り組みを行い、その成果を可視化するというものでございます。日本病院団体協議会はその趣旨に賛同し、協議会のメンバー11団体がすべてこの共同行動に参加することになりました。

この共同行動では参加登録病院3,000病院以上、有害事象発生件数の減少30万件以上、入院死亡数の減少1万人以上という具体的な達成目標を掲げております。アメリカでこのキャンペーンが大きな成果を上げたと同様に、我が国でも、目的の達成に向けてみんなで患者さんのためにがんばりたい、そんな風に考えております。お知り合いの病院で、もしまだ参加していないところがあれば、ぜひ、参加するように声をかけていただきたいと思います。

この医療安全に対する共同行動は、現在検討されております医療事故に関わる死亡に対する死因究明、再発防止の新たな仕組みとともに、医療の質・安全確保のための車の両輪として、国民、患者さんの安全を守るために、医療側が自らの責任を果たしていくという意志を行動で示すものでございます。

この行動が日本における医療の信頼性をさらに高めていくこと、そのことを確信しております。みなさん、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。